

要はないので、意味を伝えるのに最もよい描き方ができるし、日本語の場合のよ

## ケーブルテレビ

カナダはケーブルテレビの普及率が世界で最も高く、テレビをもっている七百二十万戸の半分以上がケーブルテレビ（有線テレビ）を受信している。実際には、全世帯の七五パーセントが電話線のようにケーブルでつながれており、いつでも加入できる状態にある。

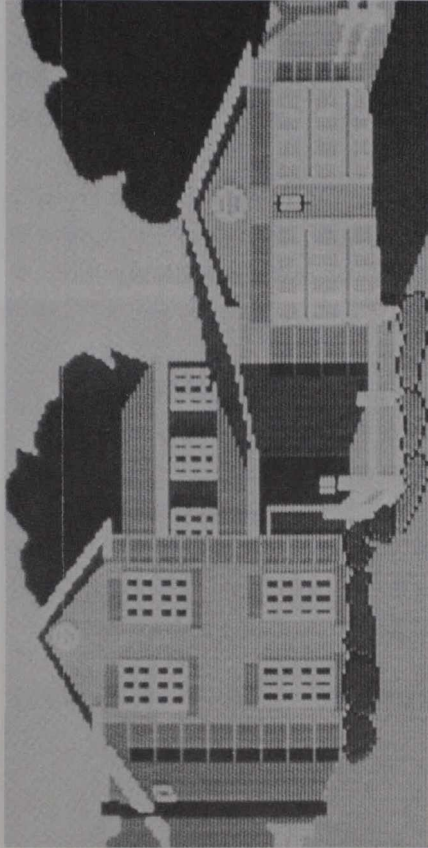
ケーブルテレビ会社の数は四百五十以上。トロントのロージャヤズ・テレコミュニケーションズ・カナディアン・ケーブルシステムズ社（加入者六十七万五千戸）とマクリーン・ハンター・ケーブルTV（二十七万四千戸）、バンクターバーのプリミエー・ケーブルビジョン社（四十四万六千戸）、モントリオールのケーブルビジョン・ナショナルレ（二十三万五千戸）が最大手。

ケーブルテレビ会社は、コミュニティ・チャンネル（ローカル番組だけのチャンネル）設置が義務づけられており、市議会や高校のフットボール大会、その他地域の行事や活動を放送する。そのほかには、カナダや米国のネットワークや近隣の放送局の番組を放送し、地域によっては三十以上のチャンネルをもっている。

うに、たてに右から左へ書いていくことも可能だ。画像の上に別の画像を重ねることもできる。点や線で描けない画像は、

いわゆるビット・モードによって画像の要素をひとつひとつ描いていく。そうすると元の形を写真やフアクシミリのようなした画像が得られる。この方法で人の顔や署名も正確に再現できる。

テリドンを使ってテレビ画面に動画を作り、写すことも可能。オンタリオ教育テレビと国立映画制作庁では、テリドンのPDI（図形描写指令信号）を用いて独自のアニメのシミュレーションをテリドン画面に作り出した。近い将来、テリドンのアニメ技術は飛躍的に向上するものと思われる。



テリドン・システムが注目されるのは、一九八〇年代におけるコンピューター通信技術の発達にうまく合うようにできていることだ。

例えば、送信手段としては、電話回線やケーブルテレビだけではなく、光ファイバー、オフエア（無線）放送、通信衛星、マイクロウェーブ、あるいはこれらの組み合わせなど、いずれも利用できるように設計されている。

用途に応じて種類も豊富だ。ビジネス用には、すぐれた解像力、さまざまな色彩などを備えた高度な端末器、家庭用には値段が安くてもつとコンパクトなものがある。テリドンのハードウェアを作っている会社では、さまざまな価格や性能のテリドン端末器を売り出すことになる。

テリドンはまだまだ発展中の技術だ。しかし、今後の技術革新によってテリドンのソフトウェア、端末機器、あるいはデータベースの構造が時代遅れになることはないだろう。PDIはコード（符号）が延長できるようになっており、いろいろな新機軸がいくらかでも追加できるからである。しかもビデオテックス端末器が伝達様式およびデータベースからほとんど完全に独立しているため、コンピューター、伝達、データベース管理、およびディスプレイ技術のいかなる変化にも対応できるようになっている。情報蓄積、送信および受信システムが互いに独立している結果、これらが技術的に変化してもシステム全体に影響はないし、データベースも大々的に作り変える必要はない。

したがって、テリドンに関する限り「未来ショック」はないといえよう。

各地でテリドンの実用テストが行われているが、これにはカナダのコンピューター・ディスプレイ装置メーカーであるノーバック社（本社トロント）が一九八〇

## ユーザー同士の対話も

テリドン技術の改良によって、近い将来、テリドンのユーザーは自分の端末器から他のユーザーの端末器に図形や文字あるいは写真の情報を送ることが可能になる。

こうした情報は、一種の「電子郵便箱」に入れておいて、もう一人のユーザーがテリドンの使用を開始したときに画面に映し出すこともできるだろう。

もし両側で端末器を使用中のときは、双方の画面を共通の「電子黒板」にしていろいろなことができる、例えばAがBの図形を直し、それをただちにBのところに伝達することも可能だ。そしてAとBは、電話線を通じて図形を見せ合いながら、同じ電話線で訂正について討論することもできる。

こうしたコミュニケーションは、すでにPDI（図形描写指令）でも可能なことが実証されているが、新しく開発される図形操作指令（PMI）によってすぐれた伝達能力と融通性が加わるようになる。